

バイオプラスチック国際シンポジウム ～ Kumar Sudesh 教授を迎えて～



目で見ると
海外講師講演会

宇山 浩*

International Symposium on Bioplastics

Key Words : Bioplastics, Bio-based polymers, Biodegradable polymers, Biomass

<日時>平成29年7月31日 10:25～10:50
<場所>銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール
<セミナータイトル>

International Symposium on Bioplastics – Finding new superior PHA synthases for the biosynthesis of novel microbial biopolyesters

今回開催したバイオプラスチック国際シンポジウムは、バイオプラスチックに関する共同研究の拠点形成を目的として、日本の9研究機関と東南アジア諸国（マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン）からバイオプラスチックの研究者が一堂に会しました。バイオプラスチックは主にバイオマス資源を原料に用い、生分解性を有する環境調和型高分子であり、社会的に普及が急がれています。そのため、日本と東南アジア諸国の間にバイオプラの共同研究拠点を設立し、バイオプラの基盤技術に関するプラットフォームを構築することを目指しています。日本と東南アジア諸国が力を合わせることで、バイオプラ開発に必要なバイオマスの前処理、合成、複合化、高性能化、加工、機能開発等について網羅的かつ分野横断的に共同研究を実施し、その成果を共有できるプラットフォームを構築することを目的としています。

今回の国際シンポジウムは拠点形成のためのキックオフミーティングに位置付けられます。日本と東南アジア四か国から22件の招待講演があり、マレーシア科学大学のKumar Sudesh教授には「Finding new superior PHA synthases for the biosynthesis of novel microbial biopolyesters」と題して、代表的なバイオプラスチックである微生物産生ポリエステルの高性能合成酵素の発見に関して講演されました。それ以外のバイオプラスチックに関する多くの講演やポスター発表を通して、バイオプラスチックに関して活発に討論し、研究者間の交流を深めました。

このシンポジウムに続いて、この拠点形成の重要な柱である若手研究者育成のためのワークショップを大阪大学で、続いてサテライトシンポジウムを東京大学で実施しました。バイオプラスチックは地球温暖化防止、化石資源の枯渇対策として重要なものですので、この拠点メンバーによる共同研究を元に、バイオプラスチックに関する研究開発をいっそう発展させていきたいと考えています。最後になりましたが、本シンポジウムは生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業の支援を受けております。関係各位に厚く御礼申し上げます。



Professor Kumar Sudesh

School of Biological Sciences, Universiti Sains Malaysia (マレーシア科学大学)



講演中の Kumar Sudesh 教授

*講演会主催者 大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 教授



シンポジウムの集合写真



シンポジウムにおけるポスターセッションの様子

